

IEA石油市場レポートの概要（2016年11月10日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 10月の世界的な石油供給は、OPEC加盟国・非加盟国の生産者の増産により、80万バレル/日増加し、9,780万バレル/日となった。世界の生産量は1年前よりも80万バレル/日多く、これはOPEC加盟国からの供給増がOPEC非加盟国での減産を補ったことによるもの。OPEC非加盟国の生産については、2016年に90万バレル/日落ち込んだ後、来年には50万バレル/日増加すると予想される。
2. ナイジェリアやリビアの生産が回復したことや、イラクの生産が過去最高を記録したことにより、10月のOPEC加盟国の原油生産量は23万バレル/日増加し、過去最高の3,383万バレル/日に達した。OPEC14カ国の生産量は、イラクとサウジアラビアに牽引される形で5ヶ月連続で増加しており、10月の生産量は1年前よりも130万バレル/日多い。
3. 石油需要の伸びは、米州のOECD加盟国や中国における急な需要減により、2016年は120万バレル/日の増加に留まると予想される。2017年の伸びも同様とみられる。過去5年間では、石油需要の伸びが最大だったのは2015年の180万バレル/日。
4. OECD加盟国の商業在庫は、9月に引き続いて2ヶ月連続の減少となった（170万バレル/日減少して30.68億バレル）。中国では9月に2,970万バレルの原油在庫が増加した。速報値は米国と日本の原油在庫の増加を示している。OPECが次のウィーンでの総会において生産抑制に合意しなければ、2017年を通じて在庫増が続くかもしれない。
5. 2016年第4四半期の世界的な石油精製量は、季節的変動により100万バレル/日減少し、前年比では15万バレル/日増加することが見込まれる。2016年の精製量の増加量（27万バレル/日）は、過去10年以上で最も低い増加である。
6. 10月の原油価格指標の値動きは、前半に上昇した後、（OPECの生産合意の実現可能性についての疑いにより）元の水準近くまで下落するという釣り鐘型の曲線となった。本レポートの執筆時点で、ICEのブレントの翌月ものは46.79ドル/バレルで取引されている。